

ハート・ロッカー (2008)

THE HURT LOCKER

メディア 映画

ジャンル アクション サスペンス 戦争

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 131分

初公開日 2010/03/06

公開情報 ブロードメディア・スタジオ

映倫 PG12

【キャッチコピー】

永遠を思わせる戦場。
刹那を生きる男たち――。

【解説】

「ハートブルー」「K-19」のキャスリン・ビグロー監督が、死と隣り合わせの日常を生きるアメリカ軍爆発物処理班の男たちの姿を力強く描き出した緊迫の戦争アクション。テロの脅威が続く混沌のイラク・バグダッドを舞台に、爆発処理チームのリーダーとして新たに赴任した破天荒な主人公ら3人の兵士が尋常ならざるプレッシャーに晒されながら爆弾解除に取り組むさまを、徹底したリアリズムで生々しくスリリングに捉えていく。主演は「28週間...」のジェレミー・レナー。共演に「ミリオンダラー・ベイビー」のアンソニー・マッキーと「ジャーヘッド」のブライアン・ジェラティ。

2004年夏、イラクのバグダッド郊外。アメリカ陸軍ブラボー中隊の爆発物処理班では、任務中に殉職者が出たため、ジェームズ二等軍曹を新リーダーとして迎え入れることに。こうして、サンボーン軍曹とエルドリッジ技術兵を補佐役とした爆弾処理チームは、任務明けまで常に死の危険が孕む38日間を共にしていく。しかし、任務が開始されると、ジェームズは遠隔ロボットを活用するなど慎重を期して取るべき作業順序や指示を全て無視し、自ら爆弾に近づいて淡々と解除作業を完遂。任務のたび、一般市民かテロリストかも分からない見物人に囲まれた現場で張り詰めた緊張感とも格闘しているサンボーンとエルドリッジには、一層の戸惑いと混乱が生じる。そして互いに衝突も生まれるものの、ストレスを発散するように酒を酌み交わし、謎めいたジェームズの一面も垣間見ることによって理解を深め結束していく3人。だがやがて、任務のさなか度重なる悲劇を目の当たりにしたことから、ある時ジェームズは冷静さを欠いた感情的行動に走り、3人の結束を揺るがす事態を招いてしまう…。

【クレジット】

| | | |
|-------------|-------------|------------------|
| 監督 | キャスリン・ビグロー | Kathryn Bigelow |
| 製作 | キャスリン・ビグロー | Kathryn Bigelow |
| | マーク・ボール | Mark Boal |
| | ニコラス・シャルティエ | Nicolas Chartier |
| | グレッグ・シャピロ | Greg Shapiro |
| 製作総指揮 | トニー・マーク | Tony Mark |
| 脚本 | マーク・ボール | Mark Boal |
| 撮影 | バリー・アクロイド | Barry Ackroyd |
| プロダクションデザイン | カール・ユーリウスソン | Karl Júlíusson |
| 衣装デザイン | ジョージ・リトル | George Little |
| 編集 | ボブ・ムラウスキー | Bob Murawski |

| | | | |
|------|--------------|-------------------|-----------------|
| | クリス・イニス | Chris Innis | |
| 音楽 | マルコ・ベルトラミ | Marco Beltrami | |
| | バック・サンダース | Buck Sanders | |
| 音楽監修 | ジョン・ビゼル | John Bissell | |
| 出演 | ジェレミー・レナー | Jeremy Renner | ウィリアム・ジェームズ二等軍曹 |
| | アンソニー・マッキー | Anthony Mackie | J・T・サンポーン軍曹 |
| | ブライアン・ジェラティ | Brian Geraghty | オーウェン・エルドリッジ技術兵 |
| | レイフ・ファインズ | Ralph Fiennes | 請負チームリーダー |
| | ガイ・ピアース | Guy Pearce | マット・トンプソン軍曹 |
| | デヴィッド・モース | David Morse | リード大佐 |
| | エヴァンジェリン・リリー | Evangeline Lilly | コニー・ジェームズ |
| | クリスチャン・カマルゴ | Christian Camargo | ジョン・ケンブリッジ大佐 |